



◆現在「クラス名を使用する」設定で運用している場合の登録データ例

0,1	⇒状態 (1=有効)	
1,1013220020	⇒利用者ID	
2,0	⇒以前のID	
3,1	⇒利用者区分 (1=生徒)	
4,2	⇒学年	
5,1:A	⇒組番号	←現状での組番号・クラス名を記録
6,20	⇒席番	
7,矢作 龍之助/やはぎ りゅうのすけ	⇒姓名	←現状でのよみを記録
10,矢作 竜之助	⇒標準字体・姓名	
11,6,3	⇒1年次の組・席	
12,1,20	⇒2年次の組・席	

※ 現状では、クラス名は組番号の後に、「:」（半角コロロン）を介して記録しています。

上記の例では、 5,1:A 先頭の5は、組番号タグ  
1:A は、1組・Aクラス

◇新形式生徒登録データについて

◆現在「クラス名を使用しない」設定で運用している場合の登録データ例

「姓名よみ」を使用しない場合は、旧形式の生徒登録データと、形式は同じです。  
「姓名よみ」を使用する場合は、「タグ71」形式に変換が必要です。

◆現在「クラス名を使用する」設定で運用している場合の登録データ例

0,1	⇒状態 (1=有効)	
1,1013210070	⇒利用者ID	
2,0	⇒以前のID	
3,1	⇒利用者区分 (1=生徒)	
4,3	⇒学年	
5,4	⇒組番号	←組番号のみ (5タグ)
6,10	⇒席番	
7,池山 愛珠	⇒姓名	←漢字姓名のみ (7タグ)
10,池山 愛珠	⇒標準字体・姓名	
11,3,16	⇒1年次の組・席	
12,6,12	⇒2年次の組・席	
13,4,10	⇒3年次の組・席	
51,0	⇒クラス名	←分離したクラス名 (51タグ)
71,いけやま あいす	⇒姓名よみ	←分離した姓名よみ (71タグ)

◇新形式の「クラス名リストデータ」の形式について

※クラス名リストデータ……学年番号・組番号にどのクラス名が対応するかを示すリストデータ

ファイル名： [書庫セットアップドライブ]¥WSYOKOLOGYO¥WSI¥KUMI.csv

◆ケース1：クラス名を使用しないで運用（ほとんどの学校はこの運用と思われます。）

- ・{貸出環境設定}メニューで、「クラス名の利用(19)」の設定を、「使用しない」に設定します。
- ・クラス名リストデータを作成する必要はありませんが、作成しても問題ありません。（既に作成した旧形式クラス名リストデータがあっても、問題はありません。）
- ・クラス名に関するアップデートは必要ありませんが、姓名よみを使用している場合は、アップデートが必要です。

◆ケース2：全ての学年で組毎に同じクラス名を使用して運用

クラス名を使用する一般的な運用です。

- ・{貸出環境設定} で、「クラス名の利用(19)」の設定を、「利用する」に設定します。
- ・クラス名リストデータは、次のような新形式のデータを作成します。

※3学年5クラスの例（クラス名をA・B・C・・・とする場合）

組番号	1年	2年	3年
1組	A	A	A
2組	B	B	B
3組	C	C	C
4組	D	D	D
5組	E	E	E

注意：上記データを {環境設定} {クラス名} メニューで作成する場合は、1年のクラス名を入力するだけで、残りの学年は、自動コピーで作成できます。

- ・{利用者管理} で、生徒を登録する際、年・組を数値で入力したとき、クラス名は、自動的に上記クラスデータマトリックスから取得し、利用者データタグ「51」に記録します。（組番号は、タグ「5」に記録します。）

◆ケース3：学年・組毎に、全て異なるクラス名を使用して運用

小規模の学校で、学年に関わらず異なるクラス名を使用する運用です。

- ・{貸出環境設定} で、「クラス名の利用(19)」の設定を、「新形式」に設定します。
  - ・クラス名データは、次のような新形式のデータを作成します。
- ※6学年1クラスの例（クラス名を動物名とする場合）

組番号	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1組	きりん	やぎ	ぞう	うさぎ	らくだ	くま

注意：上記データを {環境設定} {クラス名} メニューで作成する場合は、Excelで作成したデータを、インポートして作成するのが効率的です。

- ・{利用者管理} で、生徒を登録する際、年・組を数値で入力したとき、クラス名は、自動的に上記クラスデータマトリックスから取得し、利用者データタグ「51」に記録します。（組番号は、タグ「5」に記録します。）

◆ケース4：1・2年生だけをクラス名で、他の学年を組番号で運用

一般的な小学校で、低学年のクラス名を親しみやすくした営です。

- ・{貸出環境設定} で、「クラス名の利用(19)」の設定を、「新形式」に設定します。
  - ・クラス名データは、次のような新形式のデータを作成します。
- ※6学年3クラスの例（クラス名を動物名とする場合）

組番号	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1組	きりん	くま				
2組	うさぎ	やぎ				
3組	らくだ	ぞう				

注意：上記データを {環境設定} {クラス名} メニューで作成する場合は、1年・2年のクラス名だけを入力し、3年以降にはクラス名を入力しないで空欄とします。

- ・{利用者管理} で、生徒を登録する際、年・組を数値で入力したとき、クラス名は、自動的に上記クラスデータマトリックスから取得し、利用者データタグ「51」に記録します。(組番号は、タグ「5」に記録します。) **3年生以上は、クラス名が無いのでタグ「51」データは作成されません。**
- ・{カウンター} や {貸出状況} などのメニューで、生徒情報を表示する時、クラス名が登録されていない3年生以上の生徒は、自動的に組番号で表示されます。

以上4つのケースに付いて説明しましたが、工夫すれば、他のケースでも柔軟に運用可能です。

## ◇各ユーザー校での対応について

### ◆クラス名を使用しない運用の場合（多くの学校の運用方法です。）

{貸出環境設定} メニューで、「クラス名の利用(19)」の設定が、「使用しない」に設定されていることを確認して下さい。これまで通りの運用で問題ありませんが、{利用者管理} メニューを使用して「利用者登録データアップデート」が起動した場合は、起動後、メニューが「クラス名を使用しない」を検出しますので、画面の表示に従ってアップデートしないで、メニューを終了して下さい。(クラス名に関するアップデートが無い場合でも、姓名よみのアップデートがある場合があります。)

### ◆クラス名を使用する運用の場合

10月アップデートを行った後に、{利用者管理} メニューを起動すると、「利用者登録データアップデート」が起動します。起動画面上部の「最初にお読み下さい・作業手順」をクリックして、作業手順を確認しながら作業を進めて下さい。

アップデートが完了後は、自動的に「新形式のクラスファイル」を使用する設定に変更されます。

新形式のクラス名データを使った運用での、各種メニュー（{カウンター} や {利用者管理} など利用者情報を扱うメニュー）の使い方については、それぞれのメニューのマニュアルを参照して下さい。